

平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	普及	題名	りんご「黄香」の樹上裂果軽減対策		
[要約]					
「黄香」は満開後 135 日を経過すると裂果の可能性が増加するため、適期収穫に努める。					
落果防止剤（商品名：ストップール液剤）の散布は希釈倍率1,500倍、収穫10日前の散布とする。					
「黄香」は果重 400g 以下の適玉生産に努める。					
キーワード	りんご	黄香	裂果・落果	技術部 園芸研究室	

1 背景とねらい

岩手県オリジナルりんご品種「黄香」は、9月下旬に成熟する黄色品種で、着色管理を必要とせず、省力化を図ることができ、食味が良好なことから平成14年度に奨励品種とした。しかし、縦割れの裂果が発生するとともに、収穫前落果も認められるため、その対策技術の確立が求められている。

そこで、「黄香」の安定生産技術の確立を目的として、裂果軽減技術等を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 「黄香」は樹上で着果させた状態で満開後 135 日を経過すると裂果の可能性が増加するため、適期収穫に努める（表1）。
- (2) 落果防止剤（商品名：ストップール液剤）の1,000倍の早期散布は熟期を早める傾向がうかがわれ、裂果を助長するため、希釈倍率1,500倍、収穫10日前の散布とする（表2）。なお、落果防止剤の効果は希釈倍率1,500倍でも十分効果がある（表3）。
- (3) 「黄香」は果重 400g より重いと裂果の発生率が高まることから、400g 以下の適玉生産に努める（図1）。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 収穫適期については以下に示すが、詳細は平成 18 年度研究成果「りんご「黄香」の収穫適期判断基準と判定用カラーチャートの作成」を参照する。

表面色カラチャート指数	満開日起算日数	硬度	糖度	酸度	デンプン指数
指数 4～4.5	130～135日	16lbs程度	13%以上	0.3%前後	2以下

- (2) 高温等の気象条件により収穫前落果が早まる事があるので、収穫 10 日前よりも早く落果を確認した際には落果防止剤を散布する。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

県下全域の「黄香」生産者

(2) 期待する活用効果

黄香の裂果軽減により、生産性の安定化が図られる。

（普及見込み面積：18.5ha。H20 春までの供給苗木本数 18,514 本）

5 当該事項に係る試験研究課題

（H15-38）新品種などの安定生産技術の確立

（2000）「岩手6号」の安定生産技術の確立（H15～H22、県単）

6 研究担当者

畠山隆幸

7 参考資料・文献

平成 16～19 年度 岩手県農業研究センター 果樹試験成績書

平成 14 年度試験研究成果りんご9月下旬に成熟する省力的な黄色品種「岩手6号」

平成 18 年度試験研究成果りんご「黄香」の収穫適期判断基準と判定用カラーチャートの作成

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 樹上における縦割れの累積発生果率（H18～H20年）

		120日	129日	130日	131日	135日	136日	139日	140日	144日	150日
H18年	裂果発生数(個)	0		0		0			2		1
	累積裂果率(%)	0.0		0.0		0.0			10.0		15.0
H19年	裂果発生数(個)		0		0		12				
	累積裂果率(%)		0.0		0.0		10.4				
H20年	裂果発生数(個)				0			0		0	
	累積裂果率(%)				0.0			0.0		0.0	

H18年：N=20。H19年：N=115。H20年：N=20。H18,20年は収穫適期後も着果を継続した関係上Nが20である。供試樹はM.9台木の複製原木（H20：13年生樹）。

ストッポール散布日：H18年9月12日、H19年9月13日。H20年9月10日。希釈倍率1,000倍。

表2 落果防止剤散布と裂果発生率(希釈倍率比較)

試験区	年度	散布期	満開日 起算日	果重 (g)	CC 指数	裂果率 (%)	硬度 (lbs)	糖度 (%)	酸度 (%)	デンプン (指数)
無散布	H18		129	339	4.2	0.0	18.5	14.2	0.48	2.2
	H19		128	402	3.8	0.0	18.6	13.4	0.46	2.4
	H20		136	368	3.5	1.5	20.6	12.6	0.50	3.3
1,000倍	H18	収穫15日前	129	338	4.9	5.0	17.3	14.7	0.44	1.5
	H19	収穫20日前	128	409	4.0	0.0	19.1	14.3	0.47	2.2
	H19	収穫15日前	128	392	3.8	1.1	18.1	13.8	0.44	1.8
	H19	収穫10日前	128	431	3.7	0.0	18.7	13.9	0.46	2.4
	H20	収穫15日前	136	372	4.6	2.9	20.9	13.8	0.52	2.8
	H20	収穫10日前	136	365	3.8	1.0	20.7	12.4	0.44	2.9
1,500倍	H18	収穫15日前	129	324	4.8	0.0	17.8	14.9	0.45	1.8
	H19	収穫20日前	128	386	3.9	0.0	18.3	13.8	0.45	2.0
	H19	収穫15日前	128	365	3.9	0.0	19.2	14.4	0.44	2.4
	H19	収穫10日前	128	395	3.7	0.0	19.8	14.4	0.46	2.3

落果防止剤はストッポール液剤を散布。散布期は満開日起算日数135日から20日前、15日前、10日前。

供試樹：JM7台木。（平成15年春定植。No.183-5圃場）。H19年は黄香/ふじ/JM7。（平成15年高接ぎ。No.169圃場。）

CC：黄香カーチャート指数（1緑～6黄）デンプン：ヨードカリ反応の指数、0無～5横断面の100%に及ぶ。

表3 落果防止剤散布と落果数(H19年)

調査日	9/10 (120日)	9/12 (122日)	9/18 (128日)	9/25 (135日)	9/28 (138日)
無散布区	28	2	25	206	157
1,000倍	20日前(9/4)	1	0	1	6
	15日前(9/8)	1	1	1	8
	10日前(9/13)	5	4	8	2
1,500倍	20日前(9/4)	2	0	3	2
	15日前(9/8)	1	0	0	1
	10日前(9/13)	10	1	12	1

調査日()内は満開起算日数。

9/10に57mmの降雨。9/17に183mmの降雨。

供試樹：黄香/ふじ/JM7。（平成15年高接ぎ。No.169圃場。）

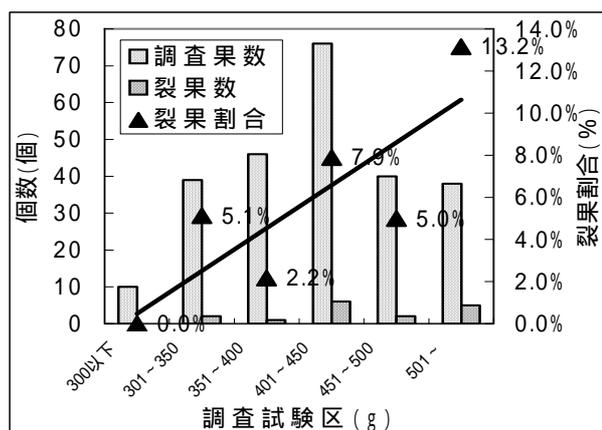


図1 H20年度果重別裂果割合 (H16植栽)

調査果数：249個。収穫時調査。満開日起算日数139日。

JM7台木。台木長10、20cm。調査果249個中の裂果割合6.4%。